

高齢者の尊厳と人権を踏みにじる政党、政府を望まない

= 「受診をひかえろ」「尊厳死の法制化」に抗議する =

2024年10月17日

日本高齢期運動連絡会  
東京都中野区中央 5-48-5 電話 03-3384-6654  
全日本年金者組合  
東京都豊島区南大塚 1-60-20 03-5978-2751

10月27日の投票日に向かって各党各候補の論戦に熱が入る中、政権党や一部野党の政策、幹部に、高齢者の「尊厳と人権」を踏みにじる看過できない発言が相次ぎ、私たちは強く抗議します。

自公連立政権は、先月9月16日の閣議決定で「高齢社会対策大綱」で高齢者医療の窓口3割負担の対象拡大を掲げました。日本維新の会は窓口負担を1割から原則3割にすることを公約に明記、10月12日の日本記者クラブの党首討論会では3割負担で「受診を控えていただける」と述べるなど極めと露骨に高齢者の医療を受ける権利を抑える発言をしました。国民民主党の玉木代表にいたっては「現役世代の社会保障負担を引き下げる」ため、公約に「尊厳死の法制化」を盛り込んだと発言しました。聞き捨てならない暴言に改めて強い怒りを表明します。14日の民放テレビ党首討論でも現役世代のために高齢者に負担を求めるかの問いに維新、国民民主、立憲民主が賛成の挙手。こぞって「高齢者に負担」を求めました。

高齢になれば誰でも健康を害し、医療・介護が必要になるのは当然です。子や孫との世代間対立を煽らないでください。高齢者を金銭で計らないでください。高齢者はリスクではありません。社会の知恵袋です。高齢者は健康で安心した老後を過ごすために、物価上昇を上回る年金額、安心してかかれる医療制度を望んでいます。

私たちは日本国憲法を守り、基本的人権が守られる政治を求めています。